

# 微分方程式 補足

# **補足1～確定特異点のある場合の級数 解～BESSELの微分方程式とBESSEL関数**

# 原点が確定特異点となる2階線形微分方程式の例—Bessel関数

- Besselの微分方程式  $x^2 \frac{d^2 y}{dx^2} + x \frac{dy}{dx} + (x^2 - \alpha^2) y = 0$
- その解 = Bessel関数 
$$J_\alpha(x) = \sum_{m=0}^{\infty} \frac{(-1)^m}{m! \Gamma(m + \alpha + 1)} \left(\frac{x}{2}\right)^{2m + \alpha}$$
  - 上記を第1種Bessel関数という
  - $\alpha$ が整数でなければ、 $J_\alpha$ と $J_{-\alpha}$ が2つの基本解
  - $\alpha$ が整数 $n$ なら、 $J_{-n}(x) = (-1)^n J_n(x)$ だから、第2基本解は $J_{-n}$ では不可
  - この時の第2基本解は、第2種Bessel関数 $Y_n(x)$

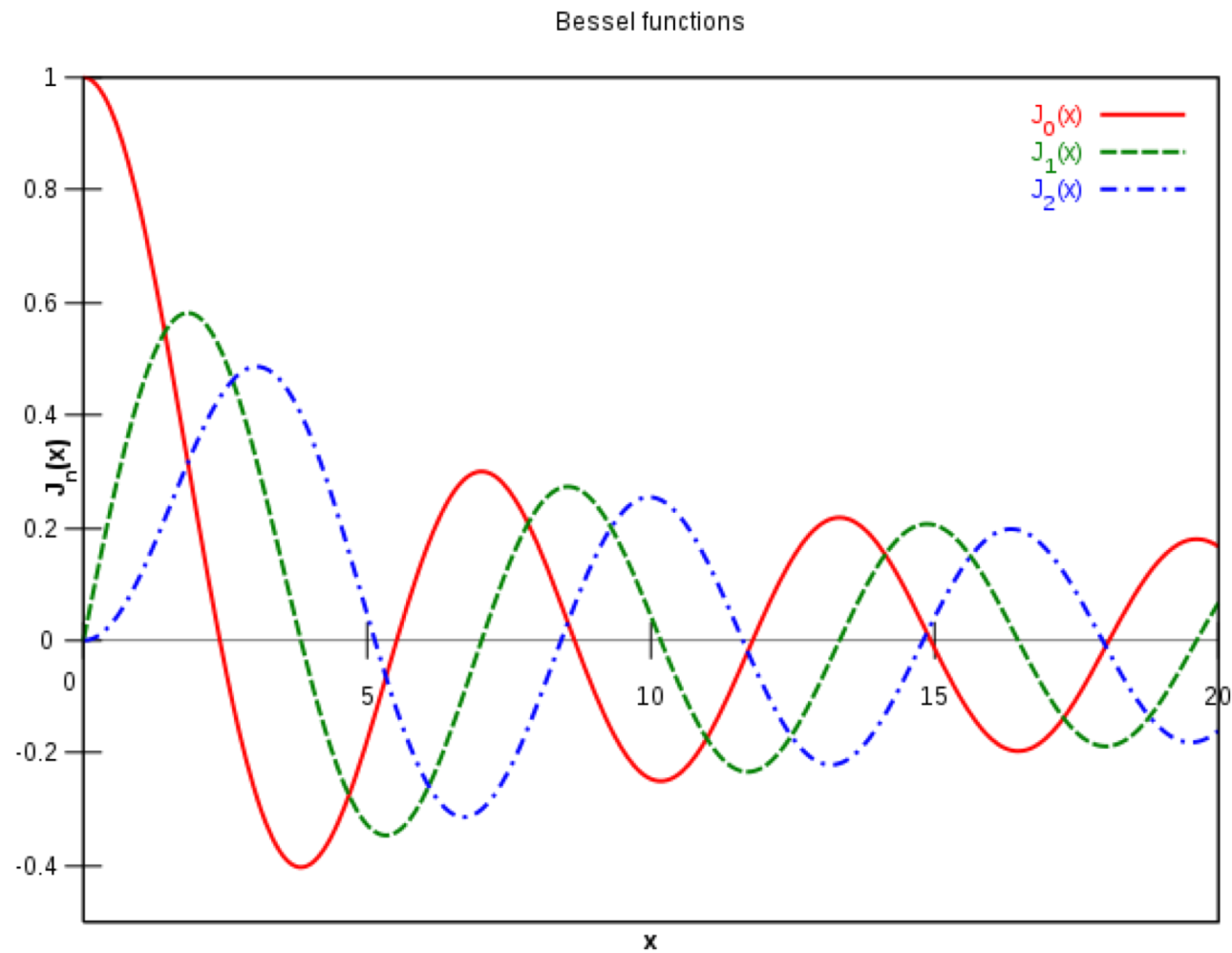
$$Y_\alpha(x) = \frac{J_\alpha(x) \cos(\alpha\pi) - J_{-\alpha}(x)}{\sin(\alpha\pi)}$$

## 第2種Bessel関数

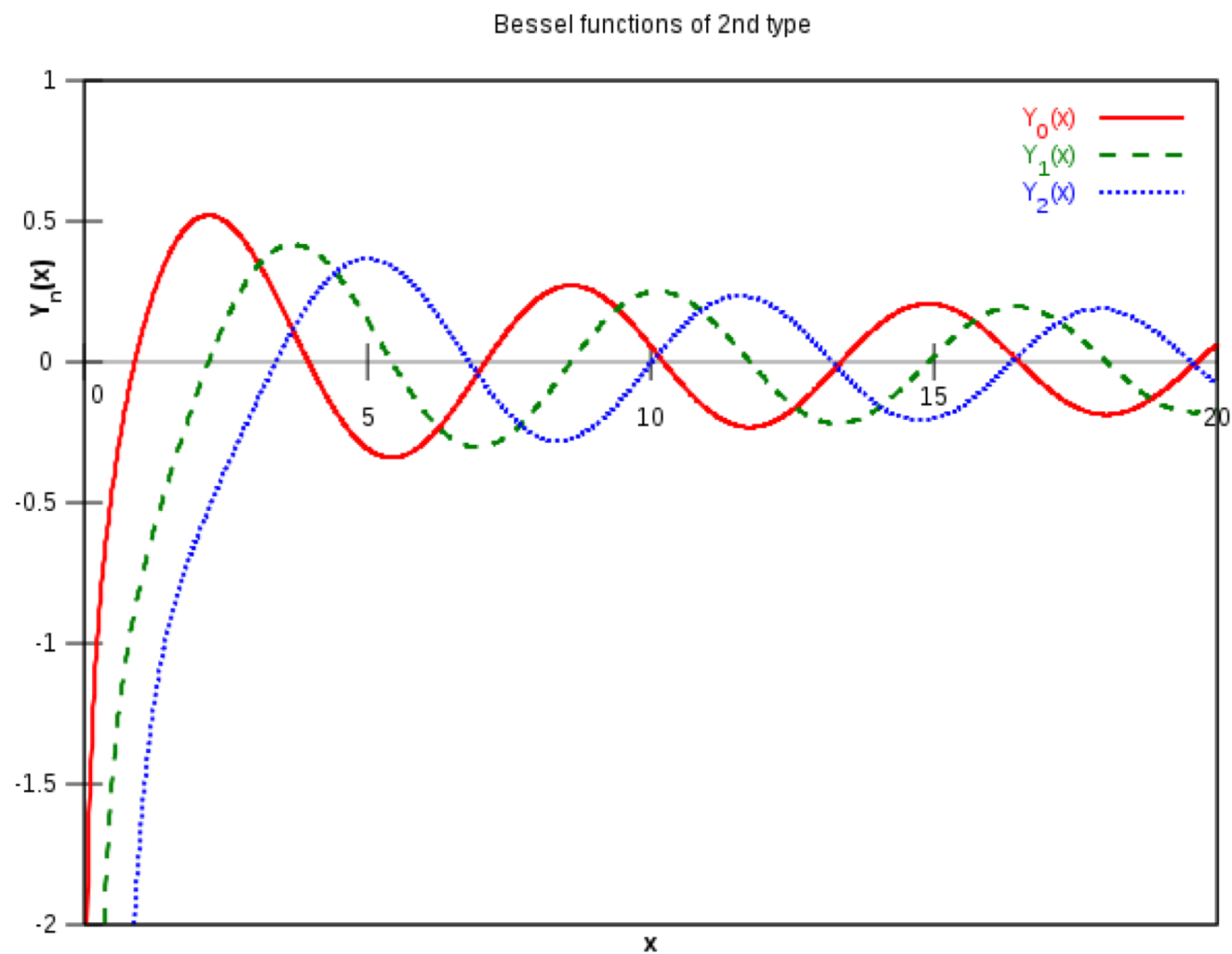
$$Y_l(x) = J_l(x) \ln|x| - \sum_{n=0}^{l-1} \frac{(l-n-1)!}{2(n!)} \left(\frac{x}{2}\right)^{2n-l} - \sum_{n=1}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2(n!)(l+n)!} \left[ \sum_{k=1}^n \left( \frac{1}{k} + \frac{1}{l+k} \right) \right] \left(\frac{x}{2}\right)^{2n+l}$$

- 詳細を記憶する必要はないが、第1項が  $J_l(x) \cdot \ln|x|$  であることに注目されたい

# 第1種Bessel関数



# 第2種Bessel関数



# 第1種Bessel関数

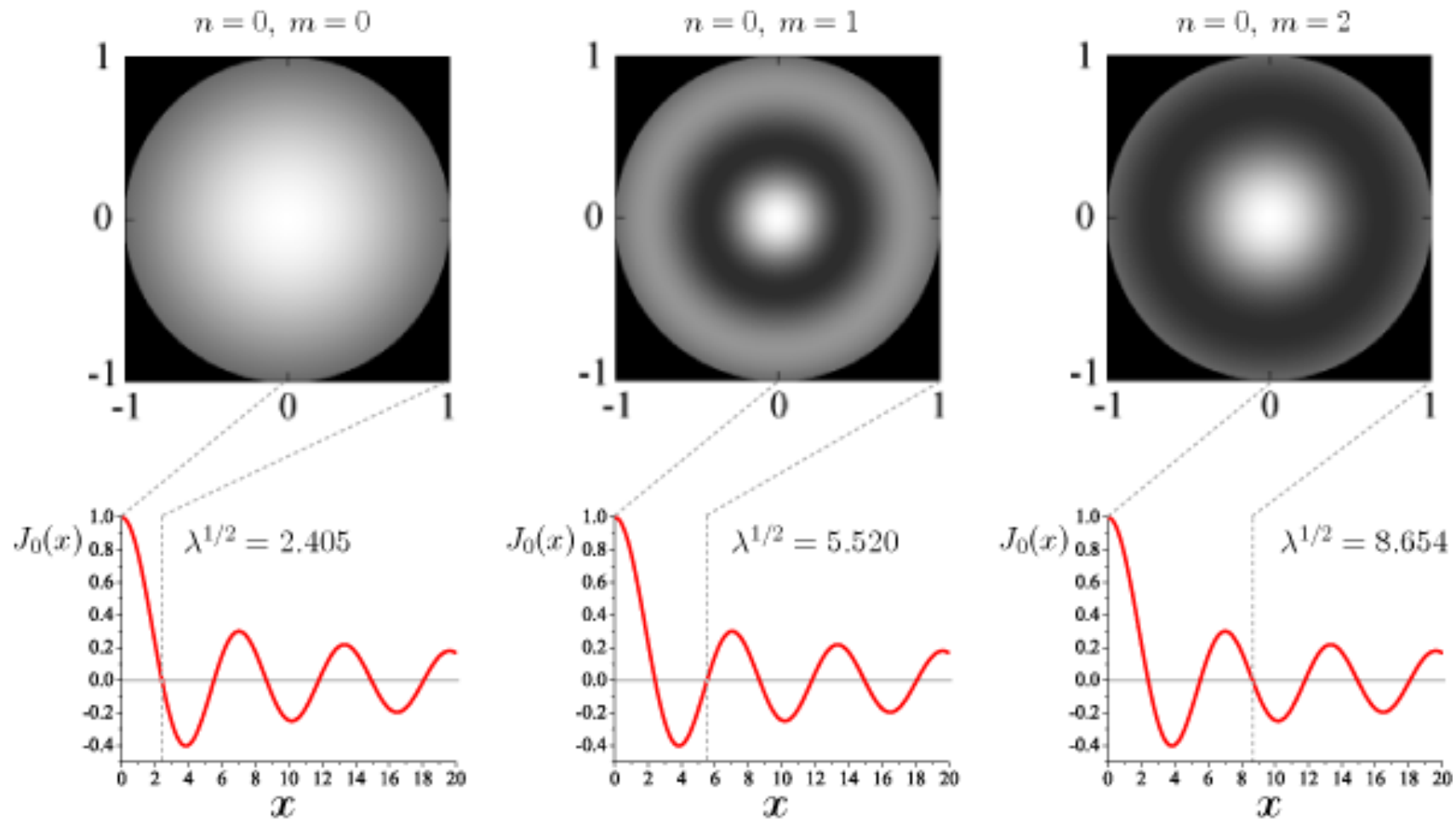
- Helmholtz方程式  $\Delta f + k^2 f = 0$  で、**軸対称**( $f$ が $\theta$ によらない), かつ $r, z$ について変数分離できるとすると、
- $r$ 方向に対して0次のBesselの微分方程式が得られる。
  - (演習)上記を試みてみよ

# 工学における第1種Bessel関数

- 円柱座標系でのHelmholtz方程式の解
  - 軸対称系の導波管内部の電磁界
  - 円柱状の物体の温度分布～熱伝導方程式の解
  - 円柱形状の原子炉の中性子束分布
- 位相変調を施した電磁波のフーリエ級数展開の展開係数
- 電気電子、情報通信、機械工学、原子核工学、建築土木、etc., 理工系では必須
- いずれまた、何かの講義にて。



# 太鼓の膜の $r$ 方向振動パターン



# 通信工学で現れる位相変調信号計算 に現れる公式

$$\cos(m \cos \theta) = J_0(m) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n J_{2n}(m) \cos 2n\theta$$

$$\sin(m \cos \theta) = 2 \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n+1} J_{2n-1}(m) \cos(2n-1)\theta$$

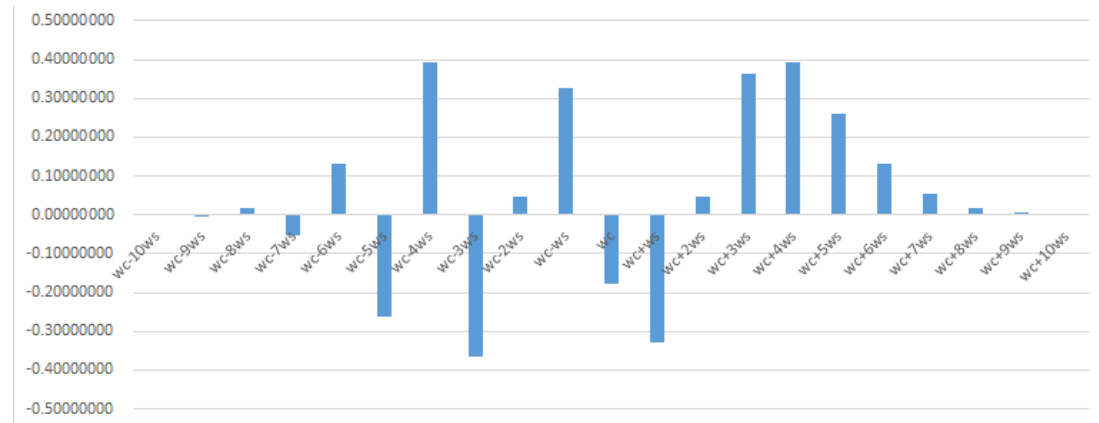
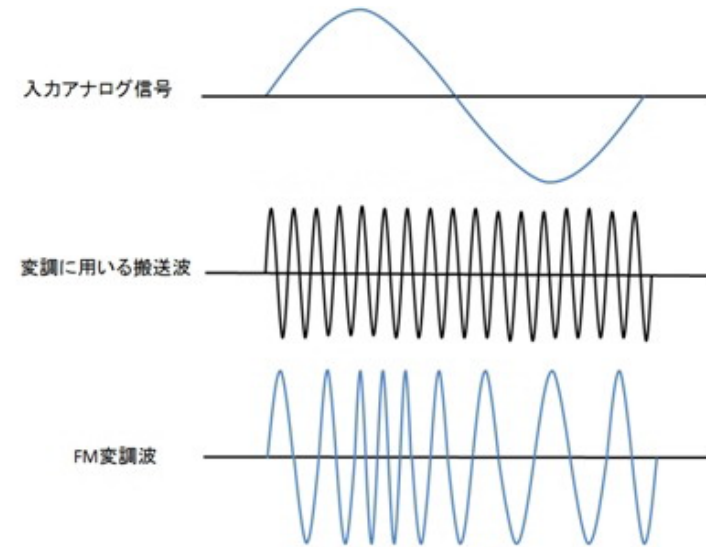
$$\cos(m \sin \theta) = J_0(m) + 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n}(m) \cos 2n\theta$$

$$\sin(m \sin \theta) = 2 \sum_{n=1}^{\infty} J_{2n-1}(m) \cos(2n-1)\theta$$

# 位相変調信号

$$f(t) = A \cos(\omega_c t + m \cos pt)$$
$$= A \sum_{n=-\infty}^{\infty} J_n(m) \cos\left[(\omega_c + np)t + \frac{n\pi}{2}\right]$$

- 2Qで行うフーリエ変換を習うと、横軸を周波数に変換可能
  - 周波数ごとのピーク値をベッセル関数で表せる
  - 詳細は2Qに



# 補足2

## 偏微分方程式の工学応用の例 ～電磁波

# 電磁波

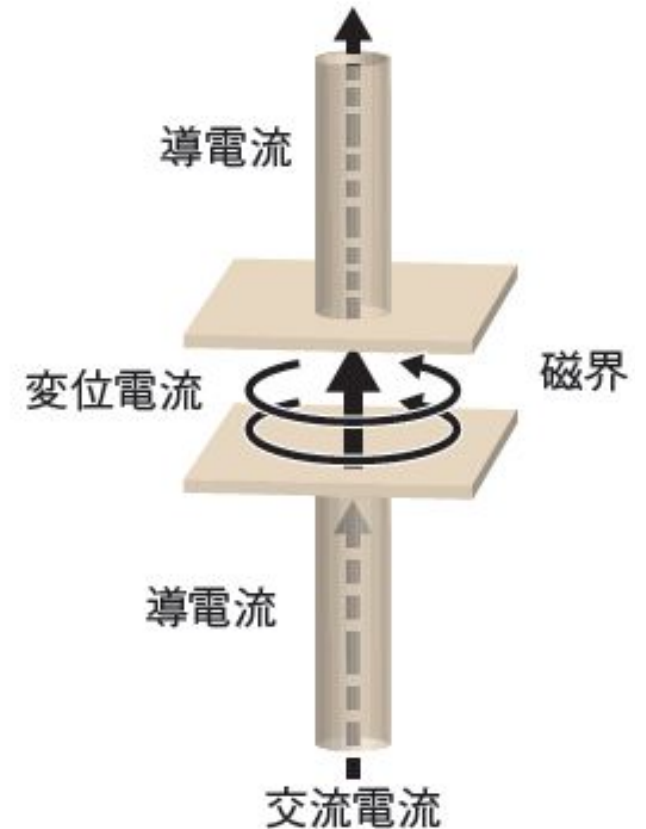
- 電磁波の伝搬は、波動方程式で表されることを示す。
- Ampèreの法則（のMaxwellによる拡張）

$$\text{rot}\mathbf{H} = \mathbf{j} + \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t}$$

$\mathbf{H}$  磁界、 $\mathbf{j}$  電流、 $\mathbf{D}$  電束密度、  
上の第2項は変位電流を表す

$$\mathbf{D} = \varepsilon \mathbf{E}$$

$\varepsilon$  誘電率、 $\mathbf{E}$  電界

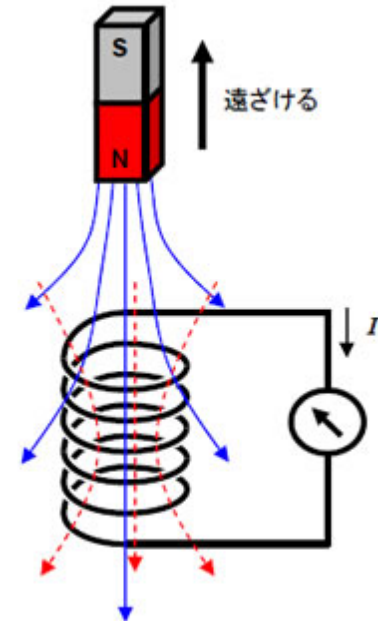
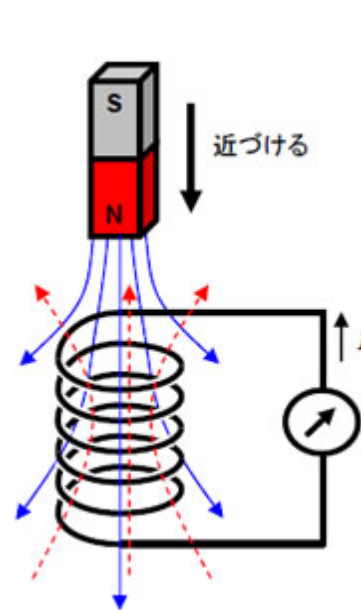


- Faradayの電磁誘導の法則

$$\text{rot}\mathbf{E} = -\frac{\partial\mathbf{B}}{\partial t}$$

$$\mathbf{B} = \mu\mathbf{H}$$

$\mathbf{B}$  磁束密度,  $\mu$  透磁率



以下、簡単化のため、 $\epsilon$ と $\mu$ は定数とする

- すなわち  $\text{rot}\mathbf{H} = \mathbf{j} + \varepsilon \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t}$  (A)

- $\text{rot}\mathbf{E} = -\mu \frac{\partial \mathbf{H}}{\partial t}$  (F)

- (A)の時間微分をとると

$$\frac{\partial}{\partial t} \text{rot}\mathbf{H} = \frac{\partial \mathbf{j}}{\partial t} + \varepsilon \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2} \quad (\text{A1})$$

- (F)のrotをとると

$$\text{rot}(\text{rot}\mathbf{E}) = \text{grad}(\text{div}\mathbf{E}) - \nabla^2 \mathbf{E} = -\mu \frac{\partial}{\partial t} (\text{rot}\mathbf{H}) \quad (\text{F1})$$

- (F1) に Gauss の法則  $\operatorname{div} \mathbf{E} = \frac{1}{\varepsilon} \rho$  ( $\rho$  電荷密度) を適用して (A1) を (F1) に代入すると

$$\frac{1}{\varepsilon} \operatorname{grad} \rho - \nabla^2 \mathbf{E} = -\mu \frac{\partial \mathbf{j}}{\partial t} - \varepsilon \mu \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2}$$

- 媒質中に、電荷も電流もない場合 (例えば真空) を考えると、 $\rho = 0, \mathbf{j} = 0$ . 従って、

$$\varepsilon \mu \frac{\partial^2 \mathbf{E}}{\partial t^2} = \nabla^2 \mathbf{E}$$

と、電界ベクトルに関する波動方程式を得る。



- また、このことから、電磁波の伝搬速度は

$$c = \frac{1}{\sqrt{\epsilon\mu}}$$

- で与えられる定数となることがわかる。
  - 光速度一定の原理; 座標によらない
  - **相対性理論**の基礎
- ここで電界ベクトルとして、以下のような時間に関して変数分離の解を仮定して代入してみる。

$$\mathbf{E} = \mathbf{E}(x, y, z, t) = \mathbf{E}_0(x, y, z) \exp(-j\omega t)$$

- すると 
$$-\frac{\omega^2}{c^2} E_0(x, y, z) \exp(-j\omega t) = \exp(-j\omega t) \nabla^2 E_0(x, y, z)$$
- すなわち 
$$\nabla^2 E_0 + k^2 E_0(x, y, z) = 0$$
  
( $k = \omega/c$ , 波数)
- と、電界ベクトルの空間依存部分は、楕円型の Helmholtz 方程式を満たすことがわかる。
- 今後様々に電磁界解析などを学ぶであろう。